

アメリカ大学院出願時の Statement of Purpose 作成アドバイス

加藤雄一郎

2015/11/10

Statement of Purpose (SoP)はアメリカの大学院に出願する際に必要になる書類の一つで、志望理由書のようなものです。ここでは、合格するためにはどのように SoP を書けばよいのか、その準備についてのアドバイスをメモとしてまとめてあります。ただし、SoP より推薦状のほうがはるかに重要だということを念を押しておきます。また、これはあくまで私が審査するとしたら、という観点でのアドバイスです。当然審査委員によって評価のポイントは変わってきます。

- **Statement of purpose** なので「なぜその大学のその学科の Ph.D.に進学したいのか」を明らかにする必要があります。つまり、「なぜその学科(分野)か」「なぜ Ph.D.か」「なぜその大学か」を分かりやすく説明する、という観点で書くということです。
- 審査委員は研究の戦力になる学生を探しています。SoP も推薦状も研究の話を中心にするのが良いですが、推薦状に客観的な事実を書いてもらい、SoP では主観的な気持ちや考えを入れる、というのが基本的な住み分けです。ただ、気持ちや考えといっても説得力を持たせるためには事実の部分も必要です。読んでいる人が思考をたどれるように工夫して、バランスを取ってみてください。
- SoP を読む審査委員は大学教員です。「あなたが PhD を目指す理由」を教員が読んだ時に、共感できる内容であれば合格しやすくなるでしょう。教員があなたの書いた内容に自分を重ねることができるようにするというのが素直な方法です。アカデミックな職ではなく起業などを目指すなら、ロールモデルや影響を受けた人物を挙げて、同じように PhD が必要だ、というのも説得力があります。
- 情熱を伝えるのが大事です。教員は自分と同じくらい熱いハートをもっている人を見つけるととても嬉しくなります。SoP を読んだ教授が若かりしころの自分のワクワク感を思い出せるように書くのが目標です。そのためには、試料作製や測定、装置の設計や修理などの実験や学会発表や論文を書くという研究プロセスの中で、どこがどのように楽しい・好きだ・燃えるのか、を具体的に伝えるのが効果的です。
- 業績があるなら、具体的・定量的にアピールするのを忘れずに。論文執筆したなら筆頭著者なのか、どのジャーナルなのか。国際会議発表は口頭かポスターか。奨学金は何をカバーしていて何年分なのか。投稿中・投稿予定・準備中でも、推薦状で同じ内容が裏付けられていると説得力が増します。
- 興味のある教員について書くところは研究紹介になりがちですが、自分の心を揺さぶるような研究をしている人がいるなら、なぜそのように感じたのか、熱意を伝えるチャンスです。例としては、自分の研究と関連しているこの論文のこういうところに感激した、学会発表を聴いてかくかくしかじかこういう理由で衝撃を受けた、など。